

平成 24 年燧灘カタクチイワシ漁況予報

平成 24 年 6 月 22 日
香川県水産試験場

香川県では、平成 5 年から燧灘海域において、愛媛県、広島県と共同でカタクチイワシの資源管理に取り組んでいる。平成 23 年の共販の取扱数量は 1,619 トンで、前年比 109%、平年比（平年値：平成 5 年～平成 22 年までの平均）98%であった。取扱金額および平均単価はそれぞれ 8 億 2,340 万円（前年比：87%，平年比：60%）、509 円（前年比：79%，平年比：59%）であった。平成 23 年の共販量・共販金額は、大羽では前年・平年と比べて大幅に増加したが、主力銘柄であるチリメンと中羽で、前年・平年と比べて大幅に減少した。共販量は大羽の豊漁で平年並みであったが、漁獲金額は、資源が低迷期から回復した平成 12 年以降で最低となった。ここでは、過去 18 年間の調査を基に、平成 24 年 6 月下旬以降の漁況予測を行った。

1. 水 温

燧灘東部沖合 4 点における水深 10m の水温の変化をみると、1 月から 6 月の水温は「平年並み」で推移していた。前年と比べると、2 月と 5 月、6 月で水温が高かった。カタクチイワシは水温が約 13℃以上になると産卵を始めることが知られており、今年も昨年同様に 5 月間近になってから産卵が始まったものと思われる。6 月 1 日の水温は、平年より 0.1℃低く、前年より 0.2℃高かった。

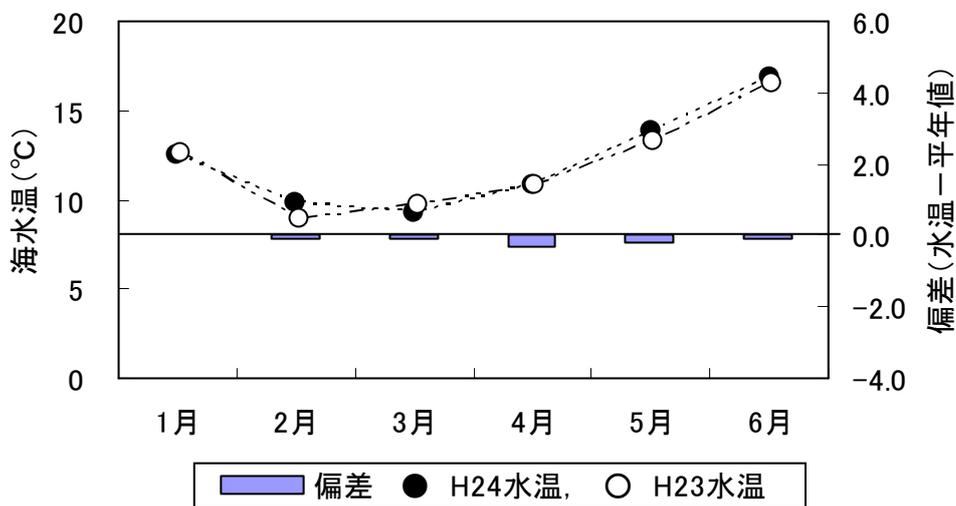


図 1 燧灘における水深 10m の水温の季節変化

2. カタクチイワシの卵と仔魚の出現状況

カタクチイワシの卵稚仔の出現状況について調べるため、4 月上旬から 6 月下旬の間に合計 6 回の卵稚仔調査（浅海定線調査を含む）を行った。卵稚仔の採集はマル特 B ネット（口径 45cm）の 20m 鉛直曳きで行った。

カタクチイワシの卵は、5 月上旬から出現した。5 月上旬から 6 月下旬にかけての出現量

は前年より少なく、平年と比べても6月上旬を除き少なかった(図2)。仔魚については、5月は前年および平年より出現量がより少なかったものの、6月は前年および平年よりやや多めに出現していた(図3)。これらのことから、産卵量は前年より少なく、平年並みからやや少ないものと考えられる。また、6月の仔魚出現量が多いことから、5月下旬から6月にかけて、ふ化率の高い良質な卵が産出されているものと推定される。

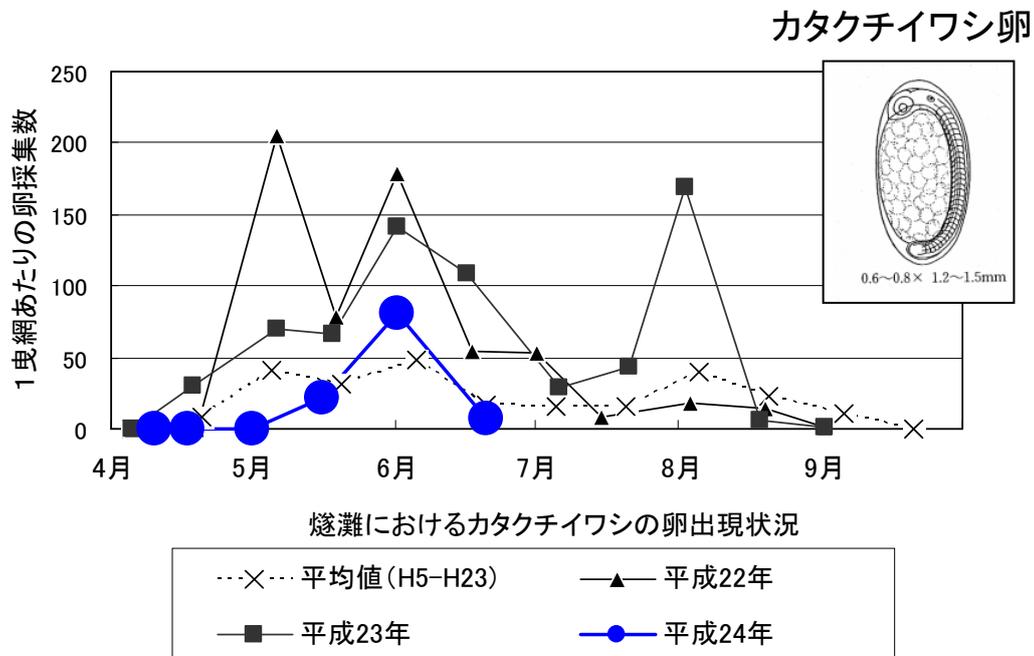


図2 1 曳網あたりのカタクチイワシ卵の採集量

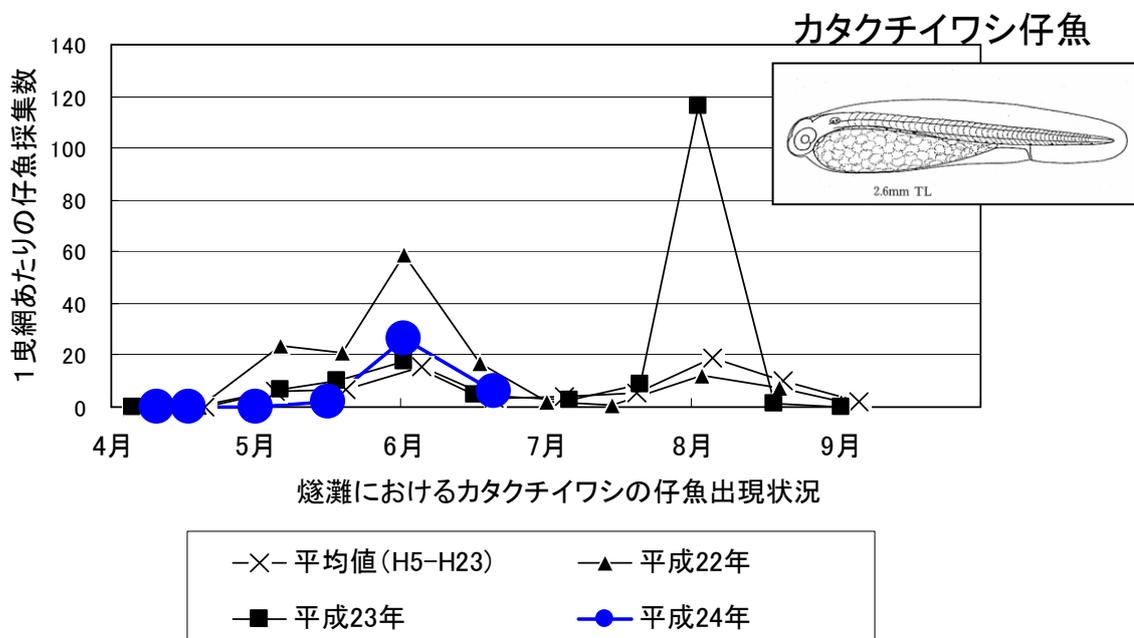


図3 1 曳網あたりのカタクチイワシ稚仔の採集量

3. プランクトン

口径 45cm のマル特Bネットで動物プランクトンと大型植物プランクトンの調査を実施した。4月上旬から6月下旬までのプランクトンの優占種と沈殿量を表1に示す。

4月～6月のプランクトンの量(沈殿量)は前年を大きく上回った。優占プランクトンは、ノクチルカ(夜光虫)であった。カタクチイワシの主餌料であるカイアシ類(COP)の密度は、平年より低いものの前年より高いものと推定される。

表1 プランクトン優占種と沈殿量の推移

	4月下旬	5月上旬	5月下旬	6月上旬	6月下旬
平成24年	NOC	NOC	NOC	NOC	DOL
(沈殿量 mL)		COS COP	SAG COP	COP	NOC
	1.0	11.9	26.6	9.7	19.8
平成23年	COP	COP	OPH	COP	RAD
(沈殿量 mL)	NOC COS	COS	COP		HYD
	1.0	0.7	0.4	0.7	3.5

※「網かけ」がされているものが、餌となるプランクトンである。

COP：コペポータ(カイアシ類) RAD：ラジオラリア(放散虫類)

NOC：ノクチルカ(夜光虫) DOL：ドリオラム(ウミタル)

HYD：ヒドロ(ヒドロクラゲ類) COS：コスキノディスクス(珪藻)

OPH：クモヒトデ属の幼生 SAG：サジッタ(ヤムシ)

4. カタクチイワシの漁況予測

6月下旬から漁獲されるチリメンは5～6月に燧灘で産卵された卵がふ化、成長したものである。この時期のカタクチイワシは1日約0.7mmで成長し、漁獲サイズの30mmに成長するのは孵化してから約40日後と考えられている。したがって、早いものでは、5月上旬にふ化したものが、6月中頃からチリメンとして加入し始める。

水温は、前年と同じように推移し、5月の卵の出現量が少なかったことから、前年同様に加入が遅れるものと考えられる。5月からの天候は、6月中旬に台風や梅雨前線の影響で大雨となったものの、比較的安定しており、カタクチイワシが順調に成長しているものと考えられる。産卵量は平年並みからやや少ないものと考えられるが、6月の仔魚出現量が多いことから、十分な産卵量が確保できているものと推察される。カタクチイワシの餌となるカイアシ類の量は、「やや少なめ」に推移しているものと思われる。

チリメン漁解禁後の漁況予測：チリメン漁解禁後の6月下旬の漁獲は良くないものの、平成24年のチリメンの加入量は、「平年並み」と推定される。